

音楽科の教師力についての一考察

日 吉 武〔鹿児島大学教育学部（音楽教育）〕

A Study of Teacher's Ability in Music Section

HIYOSHI Takeshi

キーワード：教師の言葉、教師の行動、たとえ、他分野

1. はじめに

筆者は拙著「音楽科教師に求められる力についての考察－中学校音楽科を中心に」*¹で学校という職場の中での教師という視点に立ち、音楽の指導という仕事以外に必要な事務的仕事の部分や生徒指導の部分に注目して、教師が持つべき力について考察した。そして次の四点を教師に必要な力とした。

- 自分の支えになるものを持ち高め続ける力
- まわりに心を開く力・まわりから学ぶ力
- いろいろな立場に立てる力・相手の立場に寄りそえる力
- 存在感を使い分ける力

これらの力を獲得し、高め続けることが教師には必要だと考えたわけだが、ではこの力のみで学校における音楽指導が行えるのかというと、決してそうではない。指導の計画を立て、教材研究をし、教具を用意し、というように、授業や指導の準備が大切なのはもちろん当たり前のことである。しかし、どのように準備しようとも最後は教師と児童・生徒が面と向かって向き合い、どのような関係で活動するかが重要である。

教師が児童・生徒に向き合い教育活動を展開するときに、教師の教育がどのような形を通じて児童・生徒に届き受けとめられるのか。それは一つには教師の言葉であり、もう一つには教師の行動である。児童・生徒は教師の言葉を聞き、行動を見て、感じて、教育の内容とその質を受け止める。教師自身が発する言葉と行動は、その教師の教育にとって極めて重要であると言える。

筆者はかつて中学校の教師として、生徒と向き合い教育活動を展開してきた。そこで本研究では、教師のどのような言葉と行動が生徒にとって教育

効果のあるものとして受けとめられていたのか、また生徒の印象に残り、心に刻まれ、影響を与えていたのかについて、一音楽教師であった筆者と生徒の関係から考察し、音楽科の教師が持つべき力について検討することとする。

2. 生徒がとらえた音楽科教師の言動について

本研究では、筆者の前任校である横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校において教えた生徒に卒業年の年度末に実施したアンケートの自由記述の内容を資料とする。調査の対象は、平成16年度の卒業生42名である。この42名は筆者に1年次から必修授業、合唱に関する選択授業、さらに音楽に関わる特別活動で指導を受けた。また一部の生徒は総合的な学習の時間に開かれた講座においても指導を受けている。

(1) 教師の言葉について

まず生徒に効果のあったものとして受け止められていた、また印象に残った教師の言葉について質問事項「授業の中で、印象に残っているセリフやたとえ話、役に立つ話、合唱に効果のあった発問等、いくつでも書いて下さい」で調査した。

下記に回答内容を列挙する。（複数の者が回答した言葉にはその人数を記載）

挙げられた言葉の数は教師の言葉遣い（いわゆる口癖）まで含めれば全部で102であった。

それらはさらに次の7項目に分けて整理することができる。

- ①基礎的技能の指導で生徒の記憶に残っている言葉
- ②表現力をより高める指導で生徒の記憶に残って

いる言葉

- ③楽曲の表現をより豊かにするための指導で生徒の記憶に残っている言葉
 - ④動作が主の指導で生徒の記憶に残っているもの
 - ⑤間接的資料等による指導で生徒の記憶に残っているもの
 - ⑥気持ちの持ち方の指導で生徒の記憶に残っている言葉
 - ⑦教師の言葉遣い(言い方、口癖)で記憶に残っている言葉
- 次にそれぞれの言葉についてその特徴を考察する。

①基礎的技能の指導で生徒の記憶に残っている言葉

○呼吸法について

- ・トトロの喩え(息をたっぷり吸ってたっぷり吐く感覚をつかませる) [11名]
- ・空気を吸うときは足のつま先まで空気が入るようにイメージして。
- ・丹田を意識する。 [2名]
- ・息の流れは背中を通る。 [2名]

○発声法について

- ・歌声は頭の後ろにまわす。 [6名]
- ・体育座りで響きを高める練習。
- ・心眼から歌うように。 [8名]
- ・バスケットゴールにボールをゴールするようなイメージで。
- ・指揮棒を投げたときのように綺麗な曲線を描くように歌声を飛ばす。(実際に指揮棒を投げて見せた)
- ・歌声は水鉄砲みたいにスーッと遠くに飛んでいくように。

○発声時の体の使い方について

- ・目は少女マンガの目より大きく。
- ・おじゃる丸のように目をぱっちり。
- ・奥歯を上げるようにして歌う。 [3名]
- ・上顎を上げるようにして歌う。
- ・軟口蓋を上げて舌の位置に気を付ける。
- ・口の前は開けすぎない。
- ・口の中は指3本縦に入る位の大きさに広げる。
- ・五点セットを外に広げるイメージで。 [4名]

- ・頭にとんがり帽子をかぶっている時に、とんがりの天辺から引っ張られているような感じで。
 - ・頭の天辺に紐をつけて上から吊るされているような感じの姿勢で歌う。
 - ・頭の中に空洞があり、そこに響かせる。
 - ・見るところは指揮者の頭の上のリングである。
- 歌声の響きをより豊かにする方法について
- ・バスケットボールが目の後ろにあるつもりで。(バスケットボールが二個頭に入ったかのように) [14名]
 - ・ミッキーマウスの喩え(ファルセットの感覚をつかませる) [17名]
 - ・ヘーベルハスウのCMの喩え(ファルセットの感覚をつかませる) [8名]
 - ・お腹の底から歌うように意識する。
 - ・上を向いてパイプ(剣)を口から入れるような感覚で喉をあける。 [2名]
 - ・上を向いて水を飲むときの喉の形(大きさ、広がり)を保つ。
 - ・両手を挙げて歌うと胸が広がるので歌声が響くようになる。
- フレーズをつなげて歌う方法について
- ・フレーズを長く感じる。 [3名]
 - ・太い筆で大きな線を長く書くようなイメージで。
 - ・プラネタリウムの天井を描くように。
 - ・一筆書きのように歌う。
 - ・旋律を長い一本の線で書くように歌う。
- 歌声の方向性と距離感について
- ・隣の小学校の向こう側まで届かせる。(あの山まで届くように)(ホールの2階席の扉まで届くように)
 - ・歌声が地球を一周して後ろから聴こえてくるかのように遠くに向けて歌う。 [7名]
 - ・声が宇宙に行ってから自分に返ってくるかのよう。
- 音色や音程の改善、旋律の丁寧な処理について
- ・上唇裏美人(上唇をめくるように歌う) [3名]
 - ・息づかいについて。(息を吐きながらストレッチをする、息を吐きながらピアノを弾くと音色が柔らかくなる等) [3名]
 - ・息は吐け!! 吸うより吐け!!

- ・高い音はさらに高く、下がっていく音型は上に上がる気持ちで。(階段の喩え等)〔3名〕
- ・低音から高音に移るときはさらに上から狙うように。〔3名〕
- ・人にプレゼントを渡すときは上から「はい」と丁寧に渡す。決して突き出さない。(高い音の狙い方。言葉の歌い出しは上から丁寧にするイメージ。声は上からまわして丁寧に置く感じ度)〔6名〕
- ・音が高い時には膝を少し曲げるようにして歌う。

まず特徴的なのは、テレビアニメーションなどの生徒の身近にある文化に取材した喩えを使った言葉が多く挙げられているということである。トトロやミッキーマウス、ヘーベルハウスのテレビCM等がその例である。

また生徒が家庭や学校など日常生活で体験するであろう物事に取材した喩えも多く挙げられている。バスケットボールや一筆書き、プレゼントの喩えがその例である。

現実にはあり得ないがちょっと想像すると楽しい気分になる言葉も挙げられている。歌声が地球一周という想像や上唇裏美人はその例である。

この項目では44の言葉が挙げられ、43.1%と割合としては一番多い。調査対象が選択音楽で合唱に取り組み、コンクールにまで参加した生徒達であるので、基礎的内容を重視している傾向が現れていると思われる。

②表現力をより高める指導で生徒の記憶に残っている言葉

- ・ m, h, k などの子音をはっきり言う。
- ・ 歌と思わずに、普通に読んでフレーズ感や発音を考える。
- ・ 周りの人が歌っている声を聴いて歌うように。(より上手なディクレッションドのための指導)
- ・ 自分に気持ちを返すように歌う。自身の内面に向けて歌う。(より上手なディクレッションドのための指導)
- ・ 自分自身に問いかけるように思って歌う。(ピアノニッシモの指導)

表現をレベルアップさせるために必要な、より高度な技能を身に付けるための指導の言葉である。喩えというよりは、より具体的な注意、心の使い方に関する言葉と言えよう。指導されたように自分で注意して実行してみたら効果があったので記憶に残っている、という言葉である。

体験から実感し、生徒自らの財産になっていく言葉と言えよう。

③楽曲の表現をより豊かにするための指導で生徒の記憶に残っている言葉

○物や情景、動作に喩えた指導の言葉

- ・ 針に糸を通す感じで演奏する。
- ・ 習字を書く前に筆の先を整えてから書くように、歌声も先を集めて丁寧に。
- ・ 習字をする時、最初の一筆から最後のハネまで気を抜かない。
- ・ 森の中ではしゃぎすぎず、しかし一人でうきうきとしているイメージで。
- ・ 静かな水面に広がる波紋のように。
- ・ アイスクリームの喩え〔4名〕

「ガリガリ君」から「プリンスホテルのアイスクリーム」まで。(演奏の出来映え、雰囲気)の喩えとして)

曲のこの部分はソフトクリームのようにふわっと切る。一方この部分はサーティーワンアイスクリームのようにガシガシ攻める。

今日の演奏は溶けたアイスのようなのだぞ。

- ・ 水をバケツからドバツとこぼすようにではなく、そっと注ぐような感じで。〔3名〕
- ・ 表面張力の話。コップの水がこぼれるギリギリのところ、という表現。〔3名〕
- ・ この表情アクセントは重いドアを開ける感じ度。
- 歌詞のイメージをふくらますための指導に関すること
- ・ 自然に関連づけて歌詞のイメージづくりをしてくれたこと。
- ・ 地雷の話。(歌詞の解釈につなげて)〔2名〕
- ・ 「信じる」ことは何なのか考えたこと。(歌詞の解釈につなげて)〔2名〕
- ・ 実存主義の話。(歌詞の解釈につなげて)

・「いき」は「息」や「生き」,「あい」は「愛」や「会い」,「こえ」は「声」や「越え」と複数の意味を読み取ることができる, という歌詞の解釈。〔7名〕

この項目では, ①と同じように生徒の身近にある文化や日常生活での体験に取材した喩えを使った言葉が多く挙げられている。しかし①で挙げられている喩えと違う特徴としては, 体遣いと心遣いが絡んだ動作を想像させる言葉が挙げられているということである。ある動作をしているときに心はどのような意識を持っているのか考えさせることで心の状態を変化させ, それによって音楽表現も変化する, ということを狙っている言葉である。

歌詞のイメージの指導については, その詞に関連した具体的話題を提供したり資料を提供したりしたことが挙げられている。

また「いき」や「あい」や「こえ」の指導について挙げられているが, これは, “ひらがな”の歌詞を漢字に置き換えると複数の意味を含むことができることを指導し, では音声としての鳴り響きである「イキ」や「アイ」や「コエ」をどのように感じ考えて歌おうか, と問うた指導である。この指導が生徒の想像力に十分働きかけることができたという証ではないかと思われる。

指導の言葉を受け, 生徒が想像を膨らませ, そして心の状態が変化し演奏が変わったという効果の実感が, これらの言葉を挙げさせていると考えられる。

④動作が主の指導で生徒の記憶に残っているもの

- ・手の動きをつけてフレーズを感じる。
- ・体を左右に動かして言葉のつなげ方, フレーズ感, テンポ感, 拍子感をとらえる。

⑤間接的資料等による指導で生徒の記憶に残っているもの

- ・楽曲の雰囲気に移り変わりをピアノの音で表現してみせてくれたこと。
- ・歌詞に関係のある新聞記事を配ってくれたこと。

④と⑤については言葉とは少し離れるが, 効果があった指導として挙げられているものである。④の場合, 言葉で説明を補いながら体を動かすことで音楽をより能動的に感じ取るようにさせている活動である。また⑤の場合, 歌唱曲をピアノという他の表現手段や他分野の資料を用いて指導することで, 表現が向上したという効果があったものである。いずれも演奏表現が変わった, 向上したという実感が強く残ったために挙げられていると考えられる。

⑥気持ちの持ち方の指導で生徒の記憶に残っている言葉

- ・音楽室に入ったら馬鹿になりなさい。〔2名〕
- ・目力（瞳に力を宿す）の話〔4名〕
- ・よい歌を歌えば賞は自然とついてくる。〔2名〕
- ・それがお前たちの最高の演奏か?!?!お前たちはもっとできる!!!
- ・妥協しないこと。〔2名〕
- ・気合!根性!
- ・感情のこめられた歌は気持ちが入っていないと歌えない。
- ・最後で崩れたら全てがパー。
- ・努力なしに得はない。
- ・内言の話
- ・リスペクトの精神
- ・「まごころ」の話
- ・隣の人とつながるとはどういうことか, の話。
- ・気持ちや温情を人に伝えるとは, の話。
- ・出会いの大切さ。
- ・女性はとてもえらいんだ。
- ・歴史に関する話。
- ・ヨーロッパの国々の地図上の位置に関する話。
- ・車を運転するとき本当にスピード制限通りに走っていたら迷惑になる。(物事は柔軟に考えることも必要)
- ・犬と散歩するときに引き綱の余裕で犬と主人との信頼関係がわかる。
- ・イチローやサッカーの話。
- ・天照大神が天の岩屋に籠もった神話の話。
- ・絶対先生にならない方がいい!
- ・俺を越えろ!

ここに挙げられているのは、音楽的な指導に直接は関係ない言葉である。しかし生徒一人一人に印象深く刻まれた言葉として挙げられた。特徴としてまず一つ言えるのは、心構えを諭すような言葉が多いことであろう。

「音楽室に入ったら馬鹿になりなさい。」というのは、入学直後の最初の授業でいつもかけていた言葉である。音楽室に来たら自分の殻を脱ぎ捨てて思いっきり活動しよう、という意味で伝えた言葉であるが、生徒達にはかなりのインパクトがあったようである。

また他分野から得る教訓が多く挙げられているのも特徴であろう。特にスポーツ関係が多い。内言、リスペクト、イチローやサッカーがその例である。

この項目では24の言葉が挙げられ、これは23.5%と割合としては①の項目に次いで二番目に多い。このことは、中学生が自身の気持ちに投げかけられる、気持ちを正してくれる、自らを振り返るヒントになる言葉を積極的に受け入れることを示しているのではないだろうか。

⑦教師の言葉遣い（言い方、口癖）で記憶に残っている言葉

- ・ ったりめえだ！！
- ・ タコッ！！
- ・ あたぼうよ
- ・ 「なるほどな」って思ったね
- ・ おいっ！！
- ・ それでお前はどうかんだ！
- ・ わかったかあ！？
- ・ 諸君！
- ・ モーニング

ここで挙げられている言葉遣いの半分は説教や厳しい指導をしているときに使っていた言葉である。「タコッ！！」「おいっ！！」「それでお前はどうかんだ！」「わかったかあ！？」がその例である。もちろんこれらの言葉だけでいつも指導していた訳ではないが、生徒の記憶に刻まれているということはそれだけよく使っていたということであろう。

筆者は多数の生徒が集まった場で全員に呼びかけるときには必ず「諸君！」と言っている。これは新採用教員だった時から続けていることであるが、多くの生徒の印象に残っていることのようなのである。調査では1名しか挙げていないが、前々任教から含めて教え子たちの多くが筆者の特徴として「諸君！」と呼ばけられたことを挙げてくれる。

(2) 教師の行動について

教師の行動面については、「音楽の授業全体を通しての感想等何でもよいから書いて下さい」と「学校生活全体を通して先生に対して思ったこと、感じたことをあげて下さい」という二つの質問事項に対する回答から生徒が見ていた教師の特徴を挙げてみたい。

特徴については次の3項目に分けて整理することとした。

- ①授業に関わる特徴
- ②怖さに通じる内容
- ③その他

次にそれぞれの項目について考察し、生徒がとらえていた教師の特徴をまとめてみたい。

①授業に関わる内容

- ・ 計算されたような授業をする。力は付き、時間の配分がびったり。
- ・ 状況によって様々な指導の仕方をする。
- ・ 男女問わず人気の授業。
- ・ 絶対、先生の音楽の授業になると、どんなにいつもがうるさいクラスでもすごく集中して上手くなるからすごい。
- ・ 教えるときに私たちにわかりやすいものに喩えて、私たちが想像して学びやすくなるようにしたり、笑いなども混ぜて、とても楽しく充実した授業である。
- ・ 楽しいというかユニークな授業。
- ・ すごくパワフルで毎度毎度何かしら得られるものがあつた。
- ・ 先生のピアノにもエネルギーのようなものを感じる。先生がピアノを弾くと自然と大きな声が出せる。
- ・ いつも真剣に授業をしてくれる。

- ・私たちの持っている本当の力を見つけて、それを最大限引き出すために工夫されている授業。
- ・学年ごとに段階を追って力がついていく授業。
- ・授業を通して心の勉強をたくさんすることができた。
- ・音楽だけでなく「もののとらえ方、考え方、生き方」も教わった授業。
- ・いろいろなことを知っていて本当に音楽だけの先生なのかと思った。

まとめると、授業の特徴として生徒は次の点を捉えていると言えよう。

- ・多様な指導方法を持っている。
- ・生徒を集中させる、頑張らせる力を持っている。
- ・楽しく学べる授業である。
- ・時間への配慮が為されている。
- ・熱意とエネルギーがある授業である。
- ・音楽だけでなく話題が豊富で、他分野や生活面でも学ぶことがある。

②怖さに通じる内容

- ・怖い（いつも歩いているときの顔がちょっと怖い）
- ・厳しい
- ・遠くに歩いていても何か怒られるんじゃないかって思ってしまう。
- ・間違った行動をしたとき何度も見捨てずに叱ってくれた。
- ・真正面からしっかりと怒ってくれる。
- ・熱くコミュニケーションを交わしてくれた。
- ・本気でいつでもどこでも堂々と説教ができる。
- ・遠く離れた所でも誰が何をしているのかすぐわかってしまう。
- ・音楽室から反対側の校舎に向かって注意する。
- ・地獄耳

まとめると次の点を特徴として挙げる事ができる。

- ・生徒の内面に迫る強い態度を持っている。
- ・粘り強さがある。
- ・臨機応変な対応ができています。
- ・観察力がある。

③その他

- ・声大きい
- ・熱心（何をやるにもいつも熱心）
- ・たまに言ったりする冗談がおもしろい
- ・切り替えがパッパッとできる。
- ・怒るときは怒る、楽しいときは楽しい。
- ・他の先生方とは全く違う空気・雰囲気を持っている。
- ・集中力がすごい。
- ・面白いときも怒られたときも全て自分自身のためになっている。
- ・変わり者の性格
- ・生徒のことを考えてくれている。
- ・生徒一人一人と向き合うことを欠かさない。
- ・自分の意見をはっきり持ち、いいものはいい、だめなものはだめといった風に、正義感の強い先生。
- ・万が一間違っていれば意地を張らない。
- ・何があっても見捨てず責任を果たしてくれていた。
- ・言葉に説得力がある。
- ・陸上競技大会でハードルを跳んでいるのを見てびっくりした。何でもできるんだと思った。
- ・どんなに細かいことでも妥協しない。
- ・話がわかりやすく筋が通っている。
- ・人の話を聞いているときよく頷く。

まとめると次の点を特徴として挙げる事ができる。

- ・情熱があり、それを具体的な行動で示している。チャレンジ精神がある。
- ・生徒と真剣に向き合っている。厳しさと共に生徒を支援する優しさも持っている。
- ・毅然とした態度、しっかりした判断基準を持っている。ぶれない一貫性がある。
- ・間違いを認めること、謝ることを知っており、実行している。
- ・教師として教師集団で埋もれない個性がある。

ここで代表的な記述例として二人の生徒の記述を挙げる。

○おもしろい&わかりやすい&不思議みたいな感じです。たまに冗談なのか本気なのかわかんないことを言ったりしてみんなを笑わせてくれたり、いろんな先生とかの話をしてくれるときもあるからです。

わかりやすいというのはイメージの問題なんですけど、たとえ話とか日常生活でよく出てくる現象とかで言うてくれるので知識がなくてもよくわかるのです。

不思議なのはなんかいきなり「跳びながら歌え」とか指揮をこう振れとか突然言い出すところ。合唱以外で言えば鑑賞とかでもそんなことがありました。作曲者の国がどこにあるかということで、その国とその周りの国をほとんどペラペラ～と言っていたのにすごくびっくりしました。本当に音楽だけの先生！？みたいな感じでした。

とにかく驚くことと、楽しいことが多い授業です。

○先生は、毎回の音楽の授業で、生徒一人一人と常に向き合うことを欠かさない先生で、他の授業でだらけていた生徒も、音楽になると気を引き締めているのがよくわかりました。

先生は本当に忙しい中、どんな小さなことでも目をそらさずに正面からぶつかっていき、時には体を張って怒り、時には紳士らしく優しくなって、みんなを笑わせ、授業を明るくしていただきました。

毎回の授業で、歌うことの楽しみはものすごく大きかったけれども、何よりも先生がその歌に込められた意味、現実社会について、自分の経験など、たくさん話を聞いてそれを自分に取り入れていくことが何よりも楽しかったです。

また、1年、2年の頃は、丸1時間、40人と先生との目の格闘で終わったこともあれば、突然先生が大きな声を出してみんなビクッとなってしまふこと、楽しい話をいっぱいして終わった授業もあったし、先生の人生における自慢話で終わったことなど、今振り

返ってみると様々な授業があり、先生が目をそらさず、私たちと戦ってきたことがあるからこそ、今の私たちがあって、先生を心から信頼する気持ちが生まれるんだなあと思います。

先生でなければ、私はこんなに音楽を好きになれなかったと思います。こんなにすばらしいものを知らずに生きることはもったいないことだし、今、私たちが先生から引き継いだものは、同じように次の世代へとつなげなければいけないと思います。本当に3年間、音楽が好きになる一方でした。

3. まとめ ～音楽科教師が持つべき力とは～

ここまで生徒へのアンケート調査をもとに、生徒が効果のあるものとして受け止めた、また印象に残ったものとして受け止めた音楽教師の言動について考察し、その特徴をとらえてきた。そこからは音楽科教師が持つべき力への示唆として、次の8点を得ることができる。

- ①生徒に伝わる言葉として、教師自身の発想によって工夫された指導の言葉を持つこと。
- ②様々な分野、場面に言葉のヒントを探ること。
- ③体を動かさせる指導を行うこと。
- ④気持ちの持ち方の指導を工夫しながら行うこと。
- ⑤教師としての個性を確立すること。
- ⑥多様な指導方法を持ち、情熱を持って教育に当たること。
- ⑦観察力を発揮し、生徒一人一人をよくみて、真剣に向き合うこと。
- ⑧優しさとともに厳しさを持っていること。毅然とした態度がとれること。

生徒は教師のいろいろな姿や言葉を結び付け先生像をつくりあげる。少しでも児童・生徒に伝える教育をするために、教師は努力し続けなければならないのである。

本研究は自らの実践を振り返っての研究であった。今後は他の現場教員に協力を求め、より詳細

に音楽科の教師力をあぶり出せるよう、研究を進めていきたいと考えている。

【注】

- * 1 日吉 武：「音楽科教師に求められる力についての考察 ―中学校音楽科を中心に」, 音楽教育実践ジャーナル vol. 5 no. 2 (通巻10号), 2008年, 112-117頁